



ニュースレター だんだん

2009年 11月
第2号

隠岐広域連合立 隠岐島前病院
<http://fish.miracle.ne.jp/dozen/>

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 地域ケア会議
- 3 心に届く看護を目指して
- 4 島紹介
キンニャモニャ祭り
帝まつり
- 5 お知らせ&次回予告



パティシエ師長作品
アーモンドタルト。



はじめに

前回のニュースレターからだいぶ間があいてしまいました。気がつけば秋も終わりすっかり冬になっていました。少し夏に戻り・・・今年の隠岐は本当に短い夏でしたが終わってみると多くの学生さんが島を訪れてくれました。医学生の実習、サークルを通して訪れた看護学生、個人的に興味を持って訪れてくれた看護学生など、ツールはさまざま。夏が終わってみると、なんと総勢 40 名近い学生さんたちが訪れていました。びっくりです。

訪問看護を担当している私は学生さんを連れて何度もお宅訪問。島の人たちはとても快く訪問することを承諾して下さい若い学生さん達を見て嬉しそうに話をしてくれました。

この島には高校が無く(直ぐ隣の海士にはありますが)進学を期に島を出て行ってしまふことがほとんど。10代半ばから20代前半の若手の多くは島には残っておりません。悲しいことです。

そんな中、島前病院が媒介となり多くの若い人たちが島を訪れてくれました。若い彼らが島に新しい風を運び、そして島で感じた温かさを本土に持ち帰る。それを広めてもらえたら良い循環ができるのではないかな?と感じています。病院がその一役を担えているとしたら嬉しいことです。

訪れてくれた学生さん達が現場に入るときに隠岐で感じた優しさ・暖かさを思い出してくれるといいなと思います。

地域ケア会議をはじめて 10 年

松浦幸子師長

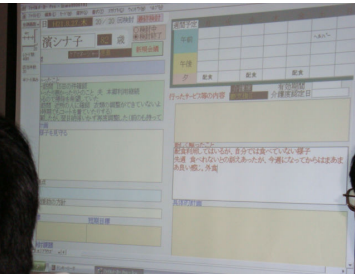
病棟看護師の視点から「地域ケア会議」と「退院時の関わり」について紹介

隠岐島前地域は地域ケア会議として毎月 2 回定期的に隠岐島前病院において退院する患者様、以前に退院し自宅生活中の患者様についてケース検討会を実施しています。参加メンバーは地域包括支援センタースタッフ、ケアマネジャー、ホームヘルパー、デイサービス担当者、ショートステイ担当者、医師、病棟看護師、訪問看護士、作業療法士などで、いつも 20 人くらい集まります。

話し合いの主な内容は、退院に向けてのケアプランについて、対応時の注意事項、訪問時の状態報告、問題に対する意見交換、今後の方向性についての確認等々です。病棟看護師にとって、担当患者様の退院後に関わる関係者が一同に集まるこの会は顔を合わせて意見交換しながら連絡することで退院看護サマリー 1 枚には変えがたいものがあります。またこの会はそれぞれの専門職が関わる中で気がかりな事が検討課題として上がってきます以前に退院した患者様の様子が確認できます。この会で新に在宅担当者の疑問に答える場面もあり、今では参加メンバー全員にとって必須の会議をなりました。この会議にのせる前後にケースに応じて、個別的に小会議を行うこともあります。この小会議は担当ケアマネー



ジャーと病棟看護師の連絡の中で必要性を確認し実施します。参加メンバーは患者様、ご家族、ケアマネージャー、医師、病棟看護師、デイサービス担当者など状況に応じたメンバーが集合しています。全体の流れとしては入院時に医師から患者様、ご家族に対して病状や退院後の生活についてある程度説明が行われ、患者様の病状が安定した時点で病棟看護師は本人、ご家族の承諾を得て地域包括支援センター、ケアマネージャーに連絡を入れます。家族からの依頼があればケアマネージャーは患者様が入院中で在宅にいるご家族の思いを聞きサービスの説明や住宅状況を確認します。在宅への受け入れが困難なご家族に対しても精神的サポート役を引受ながら退院後の支援について入院中に病棟と在宅の両方で少しずつ準備がなされる形があり、本格的に退院となった時には地域ケア会議で状況の報告が行われるという流れになります。



終末期を自宅で過したいという患者様については訪問看護や往診が中心となるため当院の訪問看護師に依頼します。ケースが発生した時点で 24 時間体制で医師、看護師の待機表を作成して対応しています。島前病院の看護職としての患者様への関わりは地域が限られていること、組織が小さいことから、臨機応変にメンバー全体が動き、協力し合い細かいところに目と手が届くというメリットがあります。デメリットは熱い看護感で沈下しているようです。

心が届く看護を目指して

「せつないわ。入院させて・・・」

いつ言い出すか、彼女が外来に来る度にみんな内心ドキドキしていた。80 代の女性。腰椎の圧迫骨折もありひどい腰痛に悩まされ、独居ということもあり、なかなか退院できずにいた。先に書いた地域ケア会議にも何度もお目見えする常連患者さん。定例会議だけでは事が進まず、何度も本人も交えて個別会議。



本人も自分が退院しなくてはいけない事は分かっていた。しかし痛みの恐怖がその一歩を遮ってしまう。話が進まない日々が続いた。しかし幸運なことに彼女の家は病院の目と鼻の先。彼女との交渉の結果、必ず誰かが会いに行くということで決着。退院していった。

それから当院のNs、OT達は通勤時、訪問時など彼女の家に寄るようにし、もちろんヘルパーさん、ケアマネさんも意識して顔を見に行っていた。その甲斐あってか会いに行くと「毎日人が来て急がし」といって笑っていた。口癖のように「腰が痛い」とは言うが（実際痛いとは思いが・・・）「入院したい」とは言わない日々が続いた。

しかし整形外科受診時、泣きそうな顔でやってきた。整形でブロックをしてもらい痛みはよくなったが、本人は帰ろうとしない。入院する気満々だった。またまた交渉の結果、ただ会いに行くのではなく、訪問看護と訪問リハビリを導入することで決着。

傍から見ると手のかかる患者でしかないが、そんな関わりの中で、彼女自身も変化し始めている。彼女はこの島では有名人。民謡の先生でCDまで出している。個人的に唄を披露してくれることはまず無かった。院内主催の催しなどで依頼をしても唄う事は無かった。そんな彼女が自ら「何かあったらいつでも唄うから声かけてね」と言ってくれた。彼女を長く知っている師長はその発言にビックリ。「あれが彼女の感謝の印なのね、みんなの気持ちが彼女を変えはじめているのね」と師長さん。

私達が足を運ぶことなど大したことではない。その事で、患者が救われるのであれば素直に嬉しいのである。小さな関わりを大切に、継続していく事が出来るのも地域看護の魅力であり、小さな変化に気付けるのは隠岐島前病院の看護の質の高さなのでしよう。

島紹介:キンニャモニャ祭り

「キンニャモニャに出るからね。夜勤にならないように希望だしておくんだよ」
「キンΩミ△π∩??」何ですか??と私。「しゃもじを持って踊るんだよ」と。

毎年8月の第4土曜日お隣の島海士町菱浦港でキンニャモニャ祭りが開催されます。メインは海士発祥の民謡「キンニャモニャ」をモチーフにしゃもじを打ちながら踊るパレード。それ以外にも地域芸能交流会、約2500発の水中花火大会、屋台などがあります。

「キヨが機織りやキンニャモニャ」という歌詞の民謡「キンニャモニャ」。そのルーツには一般的には江戸時代に杉山松太郎がつくった菱浦港の機織り唄と伝えられている。酒と女と世話が大好きな松太郎じいさん(通称キンニャモニャじいさん)とキヨの恋物語が唄われている。踊りに欠かせない道具はしゃもじでその昔まかないとしていた女性がしゃもじを手にして踊りだしたのが始まりだとされています。

そのパレードに「隠岐島前病院」も毎年参加しています。ちゃんと事前練習をして本番に臨みます。

書いている私は結局夜勤。祭りときたら、酒。酒ときたら…

夜間外来に恒例の患者さんが見えになり点滴してお帰りになりました



島紹介:帝まつり

ここ隠岐の西ノ島町は鎌倉時代末期に後醍醐天皇が配流された場所なんです。その後醍醐天皇をしのぶ「帝まつり」が毎年10月に催されています。一番の見所はやはり後醍醐天皇、武将、女官、公家、巫女などの衣装を身にまとった武者・時代行列。後醍醐天皇ゆかりの黒木御所から別府港ちかくまでの約1^キを華やかに歩きます。

もちろん島前病院のスタッフも借り出されます。馬子にも衣装とはこのことでしょうか?衣装もちゃんと京都から借りてくる入れ様。決して安物ではありません。滅多に袖を通すことの出来ない衣装を着る事が出来、いい思い出になりました。

是非、島に来て、素敵な衣装を身にまってみませんか。



お知らせ & 次回予告

お知らせ

隠岐島前病院が看護師雑誌「プチナース」に出ています。

11月10日発売。12月号

巻頭4ページに渡り紹介されます。今回は病院の紹介ではなく、離島で働く看護師の紹介です。

島前病院のホームページのリニューアルを進めています。一度サイトのほうに足を運んでみてください。ブログの更新だけでなく、サイトの更新もしていきます。定期的に見ていただけると嬉しいです。

次回予告

6月に行われた山梨県牧丘病院との口腔ケアの勉強会。これを期に島前病院の口腔ケアもどんどん変化し始めています。この半年間の成長振りをご紹介しますと思います。

島紹介

「イカTシャツ」があるくらい隠岐のイカは島の特産。量もサイズも桁が違います。今がシーズン真っ盛り。その大きさをご覧下さい



隠岐広域連合立 隠岐島前病院

〒648-0303
島根県隠岐郡西ノ島町大字美田 2071-1

電話番号:
08514-7-8221

FAX 番号:
08514-7-8702

電子メール(看護部):
oki.ns.dozen@gmail.com